

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099300016
法人名	社会福祉法人 友あい会
事業所名	グループホーム みかんの木
所在地	福岡県田川郡添田町大字添田1911番2
自己評価作成日	平成28年2月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年2月26日	評価結果確定日	平成28年4月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域行事の参加や、地域の方々を招待しての行事等で交流を深め、地域との交流を大切にしている。又、レク活動に力を入れ様々なレクを取り入れたり、生活リハにも力を入れることでADLの向上を図り、日々の生活が充実し笑顔で楽しく過ごしていただけている。利用者様・ご家族様とのコミュニケーションを大切にすることで、希望や要望を把握し快適に毎日を過ごしていただけている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域のニーズに応えるべく、理念とされる「感謝」の思いをもって立ち上げられた社会福祉法人を母体とし、障害者福祉事業及び高齢者介護事業を展開している。法人としての連携は、マンパワーの活用やノウハウの共有、食事提供に向けた協力体制等に活かされている。法人主催の「友あい祭」には、婦人会、老人会など地域の住民も参加し、盛況に開催されており、地域交流の場になっている。地域行事の神幸祭には職員が準備から関わり、地域の若手として活躍するなど、地域の一員としての活動も行われている。今年度から「田川地区介護サービス事業所協議会」が発足され、法人役員が初代会長に就任することになり、広域での情報交換がしやすい環境になりつつある。これからの期待できる、楽しい事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、内容についても職員間で随時話し合いを行うことで共有と実践につなげている	法人理念「感謝」の基に、「尊厳、笑顔、穏やかな生活、敬愛、感謝」を柱とする5項目の介護理念を掲げている。定期的に行われる全体会議で唱和し、研修項目としても位置付けながら、共有と実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ積極的に参加している。又、夏祭りやクリスマス会では地域の方を招待し、交流を図っている	町長、区長、婦人会、地域住民との交流は深まっており、開設以来積み重ねてきた地域との関係性は広がりを見せている。神幸祭、地藏盆などの地元の祭りや行事に関わり、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の症状の理解は難しいので、地域の方と関わる機会を多くもつことで、まずは認知症を知ってもらい、その関わりの中で発生する質問や疑問にお答えするよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では区長、包括支援センターや役場職員、ご家族様からの意見をいただいております、その考えや思いを反映させることでサービスの向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、定期的で開催されている。家族、区長、町役場職員、地域包括支援センター職員、法人役員、スタッフ等の参加があり、運営状況報告や地域情報の共有を図り、意見や提案をサービス向上に活かしていくよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様が地域住民の一人として生活を送れるように努めている。その為に、役場職員との日頃の密な連絡や運営推進会議に参加していただく事で情報の交換や伝達・共有を行っている	町役場福祉課との日頃からの密な関係を構築している。定期的なケースワーカーの来訪もある。利用者に対する、マイナンバーの説明、又、選挙の期日前投票等も行政との連携で協力、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為のケアとその意義について、定期的に施設内勉強会で話し合い、全職員が認識し利用者様には安全で自由な生活を送っていただけるよう努めている	日中、玄関の施錠は行っていない。「身体拘束ゼロ宣言」を掲示板に掲げている。地域包括支援センターとの連携や、外部研修、内部研修参加に向けて積極的に取り組み、管理者、職員が認識し、安全で自由な生活を送れるように支援し、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に施設内勉強会で知識をつけ、虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターへの講義の依頼等で、家族会でご家族様と共に学べる機会をもてるよう努めている	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はないが、玄関にはパンフレットを整備し、閲覧可能としている。地域包括支援センター職員による、「権利擁護」「人権」等の講義を、利用者家族、職員全員で受講し、共に学び、必要性を話し合う機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っており、不安や疑問点を、理解・納得していただけるよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日頃のコミュニケーションの中で意見・要望を把握し、ご家族様には年2回の家族会で家族間で話し合っていたり、来所時に意見・要望を聞くことで反映に努めている	年に2回の家族会が開催されており、その折、家族間での情報、要望を忌憚なく示して頂いている。又、家族の来訪が頻繁にあり、個別の意見、要望、苦情を聴き取り、迅速な対応を心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出勤時や会議、ミーティングの際に職員一人一人の意見を聞く機会を設けている	月末のミーティング時に職員からの要望、希望を聞く機会を設けている。又、運営推進会議には、職員が出席する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状況を把握し向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備について職員と対話の機会を持っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	出勤時や会議、ミーティングの際に職員一人一人の意見を聞く機会を設けている。又、職員個々の事情(家庭環境等)も考慮され勤務体系等に反映されている	採用時には年齢、性別、経験、資格による排除はしていない。職員は20代から60代まで、男性職員は約半数おり、幅広い人員で構成されている。資格取得研修にも力を入れている。「法人内研修」も頻繁に行われており、社会参加や、自己実現が出来る様に配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内での勉強会や事業所の理念の共有と実践を通じて人権とその尊重を意識するよう取り組んでいる	町役場の人権に対する講習を依頼し、事業所内で、「人権教育、啓発活動」をテーマに研修を行ない、利用者の尊厳には特に重きを置き、職員への教育に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の推奨、施設内学習会の担当役をするための自己学習、サービス向上のための書籍の購入など、自己研鑽を図れる環境にある		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間行事や地域行事の中で同業者と交流する機会がありスタッフがさまざまな発見をし向上にむけて意識できる取り組みをしている。また、個人としてのつきあいの中で情報交換等に役立っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスに向けて十分に情報収集を行っており、またその時々に変化していく情報、本人の要望等に耳を傾けることでニーズを理解しサービスとして実践するよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け、不安なことや要望等の理解により信頼関係づくりに努めるとともに、周囲の状況や事情を正しく捉えるために客観的な視点にいるよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の不安なことや要望等に耳を傾け、安心して安全が図れるプランを立案し信頼を構築していくことで真のニーズを理解しプランの質を高めていくよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のもっている力を活かし家事やレクを含めた作業を支援することで、施設生活の中での存在意義を深めていただけるよう支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には運営推進会議や家族会の参加、行事への招待、病院受診同行のお願い等面会以外の関わりをもっといただくことで本人との絆を繋ぎ共に支えていく関係を築くよう努めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外で馴染みの方が面会に来られることも度々あり、その関係が今後も途切れることがないよう面会に来ていただきやすい環境であるような施設内の雰囲気づくり等に努めている	利用者、家族にとっては、ホームとその職員自体が馴染みの存在であり、家族以外の地域の方も気軽に訪問され、利用者との談話を楽しんでいる。	本人が培ってきた人間関係や社会とのつながりを把握し、プライバシーに配慮しながら、より積極的な関係継続に向けたアプローチに結び付ける等、今後の働きかけが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が一つの空間にいることが多く、会話やレク活動、食事等利用者同士が関わられる環境をつくっている。又、個々の関係性も把握し席の場所も工夫しているが関係づくりが困難な場合は職員が寄り添い孤立しないよう対応している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、同じ地域の住人としての関係を保ちこれまでの関係性を大切にしながら付き合っていくよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、各職員からも聞き取りをし、ニーズの把握に努めている。又、本人が職員に対し思いを伝えやすいよう日頃からのコミュニケーションを大切に信頼関係を築けるよう努めている	基本情報やアセスメントの内容を共有し、日常の関わりに活かしている。また、日々の会話や表情、行動等から気づきを得ながら、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの暮らし等、利用者の歴史をアセスメントに記載し職員間で情報を共有・把握しケアにあたっている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り帳への記録、ミーティング等による伝達で現状を把握し全職員が対応できるように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、職員間での意見等をプランに反映させることで利用者それぞれが安心・安全で生きがいのある生活を送れるような介護計画を作成している。又、モニタリングも定期的に行い現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ、医師や職員の意見をもとにカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。モニタリングを通じて日々の生活を振り返り、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア等は個別記録に記入しており、また職員間での意見交換・情報交換によって介護計画の実践や見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日同じケア・対応をするのではなくその時々状況に応じて対応し、職員間の話し合いの中でもより良いケアを考え新しいニーズに対しても柔軟なサービスになるよう取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人との協力もあって町の行事参加等もあり、地域資源を活用しながら利用者が楽しく暮らしていけるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受信や週一回の往診があり、利用者の体調管理や病状の把握をいただいたり電話連絡や相談により連携をとっている。ご家族にも納得していただいております、情報の共有も図っている	入居時に本人、家族の希望を確認し、意向に沿っている。現在約半数の方が、家族支援で受診されて居り、その機会に家族との同伴を楽しみにされている。週に1回の協力医の往診がある。必要時には歯科からの訪問診療も依頼している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人看護師へ相談、助言等の連絡を密にとっており状態に応じて看護師の訪問での対応があるなどして、介護と看護の連携を図っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は情報提供書のやり取りを実施している。入院中は見舞いをし、病棟看護師等からの情報聴取や要求の対応もしている。又、かかりつけ医を通しての関係づくりにも努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の方針についての説明はしており、その状況になった時に再度話し合い、本人や家族の意向をできるだけ尊重しつつ施設で対応できることを再度伝え、職員・同法人看護師・かかりつけ医等と協力して支援している	入居時に重度化した場合の対処、トータルケアの在り方等、事業所としての方針を説明し、意向を確認している。本人、家族、法人所属の看護師、医師、職員にて方針を共有し、これまでに看取りを経験している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、緊急連絡網を整備し、急変や事故発生時に備え日頃より職員間で勉強する機会を設け迅速に対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回は火災避難訓練を実施し、地域消防団の視察もあり指導や助言をいただきながら訓練を行っている。また、区長を中心に地域住民の方との協力体制もとれている	年に2回の昼間、夜間想定避難訓練を実施している。消防団の参加、指導の下に火災想定で実施している。区長を中心に、地域住民との連携も構築されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉使いや声掛けをしている。又、施設内研修等でも再認識している。	内部研修及び外部研修を通じて、職員の意識を高めている。特に人間の尊厳に配慮した言動、支援行動を具体的に検討し、プライバシーの確保も含めた取り組みをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情、行動等の中で利用者の思いや希望を汲み取ることができその情報を職員間で共有している。又、思いを伝え自己決定しやすいような声掛けに注意している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援を心がけ、日々の生活を自分らしく・楽しく過ごしていただけるよう寄り添いながら支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はその日の気分や、本人の好みの色・デザイン等を選んでいただき、そのことで一日一日が笑顔で楽しく過ごせるように身だしなみの支援をしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器洗い等、準備から片付けまで共に行ったり食事中はテレビや音楽などで楽しく食事をしていただけるように努めている	昼食と夕食は法人の給食センターより提供されている。日曜、祝日にはセンターより調理担当が配置され、利用者の調理参加もある。又、敷地内の畑からジャガイモ栽培の収穫をし、食事に提供され、共に楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を記録し、それぞれの摂取量を把握している。状態によって食事時間をずらしたり、摂取量不足の方には栄養補助食品等で補っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施と義歯の消毒を行い口腔機能の維持に努めている。又、状態によって訪問歯科を利用している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を実施することで失敗を防ぎ自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、個別の排泄状況を確認している。また、内容の分析や排泄動作の確認を行い、一人ひとりの力が維持できるように、出来るだけトイレでの排泄を行えるように、支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練、レク活動等での運動や乳製品の飲用、腹部ホットパックの実施、Dr指示による下剤服用等で予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴スケジュールはあるが、その日の気分や体調によって日にちや時間帯等、個々に合わせた支援をし柔軟に対応している	週に3回の入浴を実施している。時間帯は本人の体調等を考慮し、朝、午後、又、毎日等、柔軟に対応している。現在、入浴を拒否される方はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息時間はあるが基本的には日中活動的に過ごしていただくことで、夜間に十分な睡眠がとれるよう支援している。不眠が持続する方には専門医受診の支援も行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに添付してある薬の目的・副作用・用法・用量が記載された用紙を元に情報を共有しており日々の観察や、変化があるときはかかりつけ医への相談等で対応している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や花の手入れ等の役割や、カラオケ・読書・裁縫等の趣味や楽しみごとによる個々に応じた気分転換を図れる支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通しての季節の花見物や地域行事の参加、ドライブや散歩、家族との外出もあり屋外へ出かけられるよう支援している	気候の良い時には、近隣の散歩を日課にしている。地域の馴染みの方との出会いもあり、談話を楽しむこともある。季節の花見、地域の行事、祭りの参加、時折のドライブも楽しんでいる。家族との繋がりが強く、頻繁に一緒に外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が管理している方が多いが所持している方もいる。買い物レクでは職員が付き添い確認の上行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や季節の挨拶状は職員がお手伝いさせていただき、家族や知人とやり取りができるように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に利用者様が作った季節の作品や写真を貼ったり観葉植物を置く等して、居心地良い空間になるように工夫している	共用空間は開放的で明るく、清潔感がある。畳スペースやソファの配置にも気配りが感じられ、又、一人用のソファ椅子が利用者のお気に入り入りの場所にあり、大きな家族の空間が、心地よく配置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファやテーブルを置くなどして、気分やその時々で自由に過ごせるような空間作りを行っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では使い慣れた家具や置物、写真など自由に居心地よく過ごせるよう工夫し、安全にも配慮した環境になっている	全室洋室である。ベットと筆筒は備え付けに成っており、馴染みの家具、仏壇、椅子等を持ち込まれている。家族と共に配置を検討し、安全で家庭的な空間に成っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札をかけ自室がわかりやすいような工夫や、フラットな床で安全に歩行ができるような床など個々の能力を活かせ、自立した生活が送れるような環境作りを行っている		